

早春は馬のごとくに駆けてきて背伸びしみがくその馬の背を

『白亜紀の風』

佐藤モニカ

「ああ、春」と箸を伸ばせば頼綱の箸ものびくる春のかおりに

『オナカシロコ』

藤島 秀憲

あそこにもここにも巣穴の気配して気づけば春のマンホールある

『天窓紀行』

川野 里子

蝶がきて風がきて蝶と風がきて翁は春のベンチとなりぬ

『雪麻呂』

小島ゆかり

軽きからだを小鳥は運びあをぞらに雲の溶け入る春となりたり

『とく来りませ』

横山未来子

梅の林過ぎてあふげば新生児微笑のごとき春の空あり

『微笑の空』

伊藤 一彦